

～育てよう！ 強く明るい えひめの子～

青少年育成だより



令和5年度「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」(令和5年8月5日)

毎月第3日曜日は「家庭の日」です。

愛媛県青少年育成協議会・愛媛県

〒790-8570 松山市一番町4丁目4-2(男女参画・子育て支援課)

TEL 089-912-2448

青少年の非行・被害防止県民大会の開催

愛媛県では青少年の非行・被害を防止し、健全育成を図るため、毎年7月を「青少年の非行・被害防止強調月間」と定め、県民総ぐるみの活動を推進しています。

同強化月間の取組として、県、県青少年育成協議会、県教育委員会及び県警察本部の共催により、「青少年の非行・被害防止県民大会」を愛媛県生涯学習センター（松山市上野町）で開催しました。（7月26日（水））

大会では、青少年の健全育成について様々な社会貢献活動等で功績のあった団体、個人に対する知事表彰及び会長感謝状の授賞式や、当協議会長による「大会宣言」などの式典、愛媛県警察本部 人身安全対策・少年課の松本淳子氏、松山少年鑑別所長を講師にお招きして講演を行いました。

【大会の様子】



【主催者あいさつ】

愛媛県知事
 (代読)愛媛県保健福祉部
 福祉政策統括監
 久保田 晶

【大会宣言】

愛媛県青少年育成協議会
 会長 野間 逸元



【優良青少年団体知事表彰】

- ①愛媛県立小松高等学校生徒会
- ②東温市立重信中学校T-ボラン
- ③双海町ジュニアリーダー会
- ④愛媛県立内子高等学校美術部
- ⑤愛媛県立北宇和高等学校馬術部



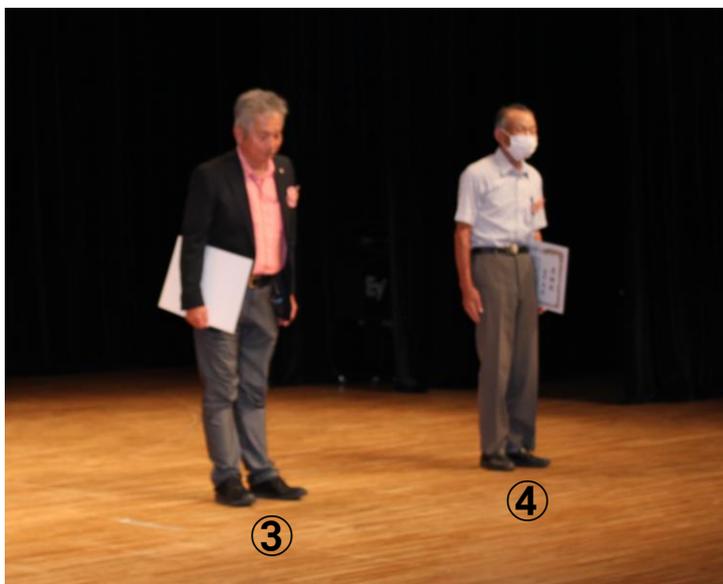
【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状(青少年育成活動団体の部)】

- ①成育コミュニティ・ボランティアの会
- ②公益財団法人常盤同郷会
- ③鷹子町獅子舞保存会
- ④美須賀子ども見守り隊(式典欠席)
- ⑤青少年健全育成講演会実行委員会(式典欠席)



【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状(青少年育成活動個人の部)】

- ①加藤 久雄(新居浜市少年補導委員協議会)(式典欠席)
- ②吉田 功(新居浜市少年補導委員協議会)(式典欠席)
- ③馬越 健(新居浜市少年補導委員協議会)
- ④藤原 進(伊予サッカースクール)



【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状(青少年団体活動個人の部)】

- 伊丹 稔(ボーイスカウト松前第1団)



【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状(善行青少年の部)】

- 中野珠里(双海町ジュニアリーダー会)(式典欠席)
- 二宮莉穂(双海町ジュニアリーダー会)(式典欠席)

【講演①】

演題:県内の少年非行・被害とSNSについて

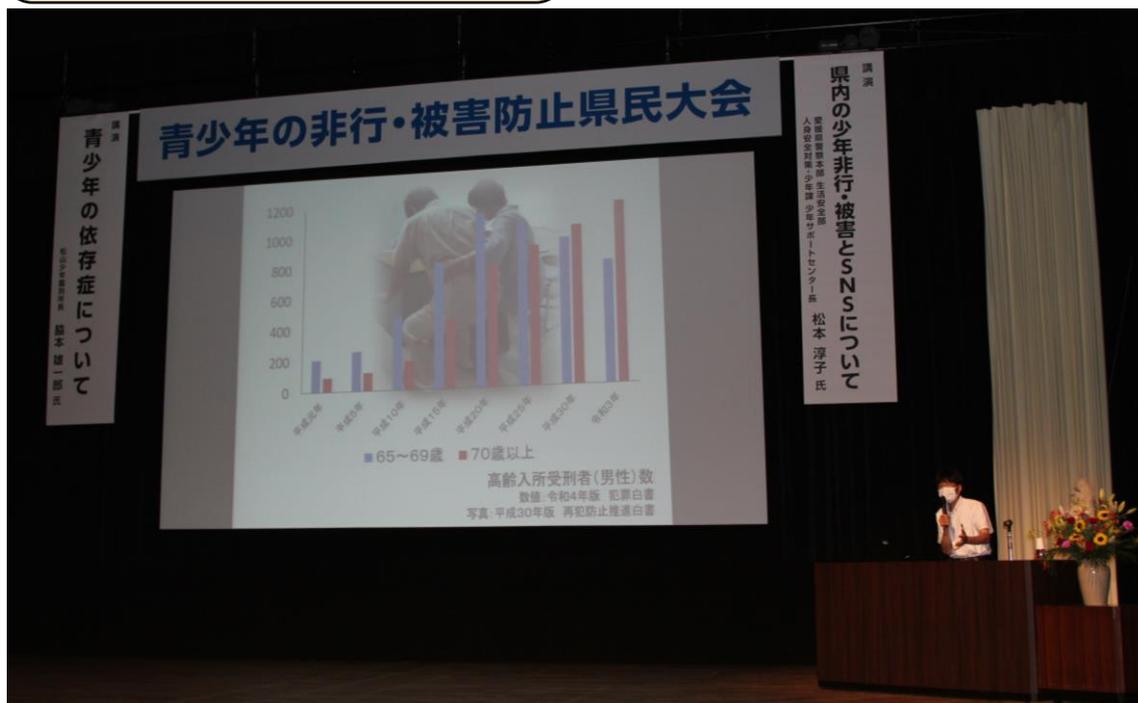
講師:松本 淳子 氏(愛媛県警察本部人身安全対策・少年課 少年サポートセンター長)



【講演②】

演題:青少年の依存症について

講師:松山少年鑑別所長



【優良青少年団体知事表彰受賞者】

●団体の部

団体名（所在地）	代表者	功績の概要
愛媛県立 小松高等学校生徒会 （西条市）	竹田 陸人	竹林整備活動、篤山邸・墓所清掃、古民家見学会のボランティア活動などは、全校生徒ほか、地域の皆様・竹林をよくする会（任意団体）・卒業生・PTAとの交流の場となっており、持続可能な町づくりに貢献する人材育成を目指している。
東温市立重信中学校 T-ボラン （東温市）	川上 斉睦	世界中の子どもたちにワクチンを届けるためのエコキャップ回収活動や、福祉施設に役立ててもらうためのアルミ缶回収運動を定期的に行っているほか、書き損じハガキ等の回収や清掃活動、募金活動、校内ボランティア広報誌「Tポラ つぶやき」による啓発活動を実施している。
双海町 ジュニアリーダー会 （伊予市）	二宮 莉穂	年1回～2回程度ゴミ拾いや花の植栽作業を行い、きれいで住みよい地域を作り出す活動を実施しているほか、地域で開催されるお祭りや福祉施設のイベントの手伝いなど、積極的に団体や地域住民と関わりをもち、地域に貢献している。
愛媛県立 内子高等学校美術部 （内子町）	堀井 彩未	内子笹まつり、いかざき大風合戦やうちこ文化祭と学校内の行事に留まらず、地域の行事に積極的に参加し、アフターコロナにおいても内子町の魅力発信に取り組み、地域の活性化に貢献しており、これらの活動を通して地域の祭りや伝統文化を継承する人材育成に取り組んでいる。
愛媛県立 北宇和高等学校馬術部 （鬼北町）	松浦 夢	県下唯一の高校馬術部として馬の世話や各種競技への出場などの活動を通じた生徒の健全育成のみならず学校・町のPRに貢献しており、地域の各種イベントに参加し、馬の説明や幼児・児童対象の乗馬体験などを行っている。

【青少年育成活動功労者等に対する会長感謝状受賞者】

●青少年育成活動 団体の部

団体名（所在地）	代表者	功績の概要
成育コミュニティ・ボランティアの会 （松山市）	近藤 陽一	松山市立小中学校へボランティアの派遣 学校で子どもの学習支援や教師の負担軽減を担う活動を実施 ・コミュニケーション支援 ・学習補助支援 ・講師支援
公益財団法人 常盤同郷会 （松山市）	山崎 薫	秋山兄弟生誕地の運営（青少年には無料公開） 武道場で柔道、合気道の稽古（青少年部員45名） 常盤同郷会賞の授与 学生寮「常盤学舎（東京）」の運営（定員40名）
鷹子町獅子舞保存会 （松山市）	松永 淳	日尾八幡神社にて、夏越し時に獅子舞奉納 秋祭りにおいて、主要場所にて獅子舞奉納 久米地区文化祭に出演 町内高齢者施設への訪問（獅子舞披露） 町内亥の子の訪問
美須賀子ども見守り隊 （今治市）	達川 輝雄	集団下校見守り 情報交換・夜間巡回
青少年健全育成講演会 実行委員会 （内子町）	沼井 高志	年1回、町内全中学生及び中学校教員、小学校長及び生徒指導担当職員、PTA関係者、教育委員などを対象に、様々な分野で活躍されている著名人から貴重な経験を直接伺える機会を提供する講演会を開催。



●青少年育成活動 個人の部

氏名	団体名(所在地)	功績の概要
加藤 久雄	新居浜市 少年補導委員協議会 金栄支部 支部長 (新居浜市)	<p>月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。</p> <p>月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。</p> <p>金栄支部では、支部長として支部員を束ね、支部の活動が円滑に進むように良くサポートしており、信頼度も高く、経験を活かし新居浜市補導委員協議会の活動の一層の発展、充実に努めている。青少年の健全育成・非行防止に対し多大な貢献をしている。</p>
吉田 功	新居浜市 少年補導委員協議会 船木始部 事務局長 (新居浜市)	<p>月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。</p> <p>月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。</p> <p>補導委員歴22年という長きにわたって活動し、地域の補導委員にも信頼度も高く、経験を活かし新居浜市補導委員協議会活動の一層の発展、充実に努めている。</p>
馬越 健	新居浜市 少年補導委員協議会 垣生支部 支部長 (新居浜市)	<p>月1回、支部員全員参加による支部定例会を開催し、青少年に関する情報交換や意見交換を行い、活動方針等を適宜立て、状況に応じた活動をしている。</p> <p>月1回以上、支部の男性班の活動として19時から21時まで支部内の夜間街頭補導を行い、非行・被害行為の発見と防止に努めている。</p> <p>金栄支部では、支部長として支部員を束ね、支部の活動が円滑に進むように良くサポートしており、重要な役割を果たしている。</p>
藤原 進	伊予サッカースクール 顧問	<p>昭和54年に地域の学校教育活動外として伊予サッカースクールを結成して以来、44年間、原則土・日曜日、小学生を対象に活動。競技の普及や体力づくりはもとより「礼儀」「リスペクトと感謝」「友情」を大切にしながら、地域の子どもたちが『サッカーを通して健全な心とからだを育む』ことを理念に、これまで700人以上の子どもたちを指導してきた。87歳になった今でも現役で一緒に汗を流している。</p> <p>併せて、約20年前から市内の保育所・認定こども園に自ら足を運び、園児にもサッカーの楽しさや礼儀を教えている。活動を通して子どもたちに仲間をつくる喜びや居場所を与え続けている。</p>

●青少年団体活動 個人の部

氏名	団体名(所在地)	功績の概要
伊丹 稔	ボーイスカウト 松前第1団 ベンチャー隊員兼 ボーイ隊上席班長 (松前町)	小学校4年生のときに入団し、カブ隊として活動を始め、小学校6年生からはボーイ隊、中学校2年生からはボーイ隊班長、高校1年生からはベンチャー隊兼ボーイ隊上席班長として、清掃活動や街頭募金活動などに継続して参加し、社会貢献活動に寄与してきた。中学校2年生時に班長に就任してからは、隊員の指導にも尽力しており、隊をけん引する模範的なリーダーとして活躍している。

●善行青少年の部

氏名	団体名(所在地)	功績の概要
中野 珠里	双海町 ジュニアリーダー会 高校生大学生統括部長 (伊予市)	「双海町こども教室」の運営補助、プログラムの企画立案、実施などをメインにボランティア活動を実施しており、地域イベントや高齢者福祉施設のイベントの手伝いなど、積極的に活動の幅を広げ、個々の成長や地域貢献を目的に活動している。 高校生大学生統括部長に就任し、会長、副会長をサポートしており、多世代とのつながりを大切にしながら同会の活動の幅を広げることに貢献した。
二宮 莉穂	双海町 ジュニアリーダー会 会長 (伊予市)	「双海町こども教室」の運営補助、プログラムの企画立案、実施などをメインにボランティア活動を実施しており、地域イベントや高齢者福祉施設のイベントの手伝いなど、積極的に活動の幅を広げ、個々の成長や地域貢献を目的に活動している。 会長に就任し、会員の意見を取りまとめたり、様々なアイデアを出したりするなど活動の幅を広げている。

大会宣言

次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題であり、県、市町、関係団体等が、それぞれの役割及び責任を果たしつつ、相互に協力しながら、地域が一体となった青少年の非行・被害防止のための取組を進めることが必要である。

このため、「青少年の非行・被害防止県民大会」を開催するにあたり、県民総ぐるみによる青少年の非行・被害防止及び健全育成運動を一層強力に推進していくため、次のことを宣言する。

- 一、 SNSの利用に起因する青少年の犯罪被害を防止するため、フィルタリング利用率向上のための取組をはじめ、青少年のインターネットを適切に活用する能力の向上やペアレンタルコントロールによる対応の推進に向けて啓発する。
- 一、 青少年が、「JKビジネス」等に係る被害を受けることがないように、被害事例や相談窓口、被害に遭わないための対処法等について広報啓発を行う。
- 一、 有害図書類等の販売、貸付等について、「愛媛県青少年保護条例」に基づく対策の徹底を図るとともに、20歳未満の者に対する酒類・たばこの販売等の防止に向けた取組を推進する。
- 一、 大麻、覚醒剤、危険ドラッグ等の危険性や有害性に関する正しい知識の普及を積極的に推進するなど、薬物乱用の防止に関する指導の充実を図るとともに、治療・社会復帰の支援等に努めるなど、再乱用防止対策の充実強化を図る。
- 一、 オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺に誘い込む手口等についての情報発信などを行うなど、青少年を特殊詐欺に加担させないための取組を推進する。
- 一、 再非行の防止の重要性について県民の理解を深め、地域における相談機関相互の連携を強化し、青少年や保護者・家庭からの相談に対し、よりの確に対応する。
- 一、 重大ないじめ・暴力行為等の問題行動の被害に遭っている青少年が、一人で悩み苦しむことのないよう、早期把握や解明に努め、問題行動を起こした少年に対する適切な処遇、指導監督の推進及び再発の防止を図る。

令和5年7月26日

青少年の非行・被害防止県民大会

愛媛の未来をひらく少年の主張大会

8月5日(土)、愛媛県生涯学習センター 県民小劇場ホール(松山市)にて、令和5年度「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」(共催:県、県青少年育成協議会、県教育委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構)を開催しました。45回目を迎えた今年度も県内各地から1,563名もの中学生の皆さんに応募をいただき、その中から予備審査により選ばれた10名が家族や社会の中で興味を持ったことなどについて発表し、いずれも聴衆の心に響くすばらしい発表でした。

今大会の最優秀賞は新居浜市立中萩中学校3年の水田葵彩さん、優秀賞は新居浜市立西中学校3年の高橋璃桜さん、松山市立内宮中学校2年の矢葺一虎さんの2名が受賞されました。最優秀賞の水田さんは、11月に東京で開催された「少年の主張全国大会～わたしの主張2023～」に愛媛県代表として推薦しました。

◎審査結果

最優秀賞	最期までどう生きたい? 新居浜市立中萩中学校	3年	水田	葵彩
	優秀賞 (五十音順)	世界とつながる第一歩 新居浜市立西中学校	3年	高橋
優良賞 (五十音順)	世代を超えて、後継者問題を考える 松山市立内宮中学校	2年	矢葺	一虎
	幸せな未来を守るカギ 新居浜市立川東中学校	3年	石川	寛太
	美江さんは聞き上手 新居浜市立中萩中学校	3年	片上	沙羅
	私たちの学校を廃校になんかせせない 篠山小中学校組合立篠山中学校	3年	木下	そら
	「言霊」 新居浜市立東中学校	3年	窪田	知佳
	生きる社会を明るくするために 今治市立日吉中学校	2年	廣瀬	虹名
	見た目は着ぐるみ 新居浜市立別子中学校	3年	日吉	優里
	誰にも負けんお母さん 今治市立朝倉中学校	2年	渡邊	葵月

最優秀賞

最期までどう生きたい？

新居浜市立中萩中学校 3年 水田 葵彩

みなさんは、自分の人生を最期までどう生きたいか、ということを考えてことがありますか。また、家族が最期までどう生きたいと思っているかを聞いたことがありますか。例えば、自分の家族が自力で呼吸ができなくなったとき、その人が意思表示をすることができないとして、あなたは延命措置をするかどうかを決められますか。私はこれまでそのようなことを考えたことはなかったのですが、最近、深く考えさせられる出来事がありました。

先日、私の母方の祖父が突然亡くなりました。その日の朝まで元気だった祖父は、食べ物を喉に詰まらせて救急搬送されました。母が急いで病院に駆けつけましたが、その後しばらくして、もう亡くなるから、と私も病院に呼ばれました。私が着いた時には、祖父の意識はもうすでになく、家族みんなで静かに祖父の心臓が止まるのを見守りました。私は、目の前で人が亡くなるのを初めて見たので、とても怖くもあり、祖父との別れが悲しくもあり、複雑な気持ちでした。

しかし、後日、私の知らないところで、母や母の姉である伯母が、その時大きな決断を下していたことを知りました。祖父が病院に搬送されたとき、意識はなく、自力で呼吸もできずに、脳に酸素が回っていない状態だったそうです。自分の父親が亡くなるかもしれないという不安を抱えたまま、母や伯母は、病院の先生に、人工呼吸器をつけるかどうかの決断を迫られました。意識の回復が見込めない中、人工呼吸器をつけたとしても、意思の疎通もできず、なんのために生きているのか。でも、つけないという選択をしたら、自分たちが父親を死なせてしまうことになるのではないかと。たった数分間にこの決断をしなくてはいけなかったこと。どちらを選択しても、後悔は残り続けるのかもしれないということ。それは、私が感じた怖さよりも、もっともっと怖く、つらいことだったのではないかと思います。結局、人工呼吸器はつけない選択をしましたが、祖父はどうしてほしかったのでしょうか。今となっては分かりませんが、それを元気なうちに聞いていたら、母や伯母は、もう少し心が楽になった部分もあったのではないかと思います。

今回のこともあり、祖父の葬儀の後、家族で、自分は最期までどう生きたいか、どうしてほしいか、それぞれの考えていることを話し合ってみました。祖父の場合は人工呼吸器をつけるかどうかの選択でしたが、母と話をする中で、身近にある臓器提供意思カードについても知りました。自分が脳死状態になった後、臓器提供をしたいという意思表示は15歳からできます。また、臓器提供をしたくない人は、年齢を問わずにその意思を示すことができます。自分の最期を自分で決めることができるのです。若くても高齢でも、誰にでも様々な形で命の選択を迫られる可能性はあります。母や伯母のような決断を、たった一人でしなくてはいけない時がくるかもしれません。その時に、その人がどうしてほしいかを聞いているのと、聞いていないのとでは、選択する人の心の負担は大きく違います。

何かきっかけがなければ、このようなことを考えたり、話し合ったりすることもないかもしれません。しかし、いつくるか分からない「その時」のために、まずは私が自分自身の命と向き合い、最期までどう生きたいかをしっかりと考えておきたいと思います。そして、残される家族のためにも、その意思を共有しておくことで、それぞれが納得のいく最期を迎えることができるかもしれません。人の考えは変わることもあるでしょう。だからこそ、何度でも、自分や家族の大切な命と向き合い続けていきたいです。

優秀賞

世界とつながる第一歩

新居浜市立西中学校 3年 高橋 璃桜

皆さんは、「SDGs」を知っていますか。これは、「持続可能な社会を目指すために達成すべき17の目標」を掲げた取組です。

小学6年生の時にこれを初めて知り、いろいろ学習もしましたが、正直なところ、どこか絵空事のように捉えてしまいました。

そんなある日、私が再び「SDGs」と関わる出来事に出会いました。それはある有名な企業が2013年から行っている「服のチカラプロジェクト」です。これは、家にある着なくなった子ども服を学校で回収し、必要としている世界中の子どもたちに届ける活動です。西中も福祉委員会が中心となってこの活動に参加することになりました。私も小さい時に着ていたTシャツを持って行くことはしました。それで十分だと思って、私の中ではこの活動は終わっていました。そんな中、友人に「仕分けの人手が足りないから参加してみない？」と誘われました。私は内心、面倒くさいと思って断るつもりでしたが、熱心な誘いの前に、しぶしぶ承知しました。その日の放課後、友達と行くと大量の服が入ったダンボール箱が数十箱。「こんなにあるんだ…。終わる？」とぶつぶつ言っていた私に、すでに来ていた人たちが、一緒にやろうと声をかけてくれ、仕分けが始まりました。作業は思っていたよりも細かく大変でした。一枚一枚広げて、目立つ汚れのある物は省きます。それ以外はタグを見て使用されている素材のパーセンテージごとにし、サイズや春夏用、トップスとボトムスに分けていきました。その中で、特に気になる点がありました。それは、「武器などの戦争をイメージさせるプリントがある物は省く。」私たちがおしゃれでかっこいいと思ったデザインは、外国では命を奪いかねない物になってしまう…。そのことを友人から聞きました。生まれた時から好きなデザインのものを買ってもらい、自由に着ることができる。サイズも合わなくなったらすぐに変えられる。そんなことが当たり前と思っていた私は、さっきまでの自分を恥ずかしく感じました。これはいい加減な気持ちではできないと思いました。それから、周りのみんなが、「この服、次はどんな子に着てもらえるんだろうね。」「かわいいデザインだから喜んでくれるよ。」と言っているのが聞こえると、この服を着て嬉しそうな女の子の光景がぱっと、目に浮かびました。私も思わず笑顔になり、好きな服を着て幸せになる気持ちを知ってほしいという想いも一緒に詰めました。2箱目、3箱目とどんどん作業が進み、18時過ぎ、全ての仕分けが終わりました。その時の私は、一つのことを成し遂げ、誰かの役に立てた喜びで満ち溢れていました。きっとその場にいた全員も同じ気持ちだったと思います。後日、学校に感謝状や現地の写真が送られてきました。そこにはアルジェリア、シリアなど、様々な国の笑顔の子どもたちが写っていました。あの時の想いが届き、遠くの誰かとつながった気がして、私も幸せな気持ちに包まれました。初めは面倒だと思っていた私を、やってよかったと思わせ、服を受け取った人を明るくする。ちょっとしたことで、人を変えることができると感じられたのは、「服のチカラプロジェクト」のおかげです。

皆さんも難しいことを考えず、小さな私ができるように、持続可能な社会を目指す第一歩を、一緒に見つけて踏み出してみませんか？その一歩はいつか必ず世界とつながるはずです。私は今年も、服のチカラプロジェクトに参加します！

優秀賞

世代を超えて、後継者問題を考える

松山市立内宮中学校 2年 矢葺 一虎

皆さんはミカンが好きですか。私は、大好きです。いや、頬っぺたが落ちそうになるくらい甘くて、ほんの少し酸味が効いていて絶妙に美味しい食べ物を嫌いになれる訳がありません。そんな私の祖父母はミカン農家です。祖父母は40年近くミカンを育てる大ベテランです。当時小学生だった私も負けじと収穫のお手伝いをしていました。小学生だった私には鋏を使い上手にヘタを残し、その上をパチンっと切るとは困難な技でした。ですが、祖父母は、丁寧に優しく何度も繰り返し教えてくれました。そうするとだんだん上手になり、小学4年生になった頃には、祖父母と一緒に一丁前に収穫をするようになりました。

しかし、中学生になると学習や部活動の両立に追われ徐々にお手伝いが出来なくなりました。今年で祖父は79歳、祖母は76歳です。体力にも限界がきていました。だから、アルバイトの募集をかけてみたりして、何とか栽培を続けていました。そのうち、「後継ぎはどうしたもんかね。」と、祖父がぼそぼそと口にするのを、耳にするようになりました。私は誰かに土地を譲ったり売ったりしてしまうのではないかと、内心穏やかではありませんでした。

するとある日、私の姉がこう言いました。「じいちゃんの後継ぎは私がやる。育てるのは好きやけん大丈夫。」と。突然のことに、家族中が不安に包まれました。母は、「あんた大丈夫なんかね。そう百姓は楽なもんじゃないんやけん。」と言いました。しかし、姉は母に向かって堂々と「そんなんは百も承知やけん。」と言いました。その時、私は心からほっとしました。それは、祖父母がずっと大切に守ってきたあのミカン山が、私と祖父母との大切な思い出がいっぱい詰まったあのミカン山が、無くならなくて済む。という、安堵からきたものでした。

しかし、現在、農業従事者の高齢化や後継者不足は大きな課題となっています。愛媛県では、35年間でミカン農家は三分の一以下の約7,000戸までに減少しました。それに伴い、ミカンの栽培面積が減少し、10年前に比べて四分の一もの出荷量が減っています。それらの要因として、農業に対するイメージが良くないことが挙げられます。世間の一般的なイメージとしての3K（キツイ、汚い、危険）です。もう一つは、自然環境などの天候に左右されやすく、安定した収入が得られないという意識を持たれているためです。これらを払拭しないと、若者の農業離れは止まりません。私は、大好きなミカンの生産量が、このまま徐々に徐々に落ちていき、次第に食べられなくなるなんてことは絶対に嫌です。

そこで、私は思いつきました。「姉とともに、農業に対するイメージ変化のためのPRを、インターネット上でどんどん行っていけば良いんじゃないか」と。

今では、姉は祖父母の後を継いで、祖父に指導されながらミカンを育てています。姉の様に少しでも多くの後継者が増えてほしい。少しでも多くの若者の農業に対する意識が変わり、この仕事に興味や魅力を感じてもらいたい。そして、同じ若者自身の視点で、若者の農業に対する意識を変えるための発想を創造し、社会に対して発信していく……そうすれば、後継者問題も少しずつ解消されるかもしれません。

私は後継者問題に向き合ってみた結果、人を変えようとするために必要な力……それは、困難な状況に立ち向かう「行動力」とこれからの時代を動かす者に対する「発信力」だと感じました。まだ、イメージ変化のための積極的なPRはできていませんが、今後どんどん日本中に発信していくつもりです。そして、日本の農業の未来が明るく変化していくために……まずは精一杯、自分のできることから尽力していきたいです。

【お知らせ】

令和6年度の青少年関係大会は、下記日程で開催を予定しております。

是非ともご参加いただきますよう、お願いいたします。

○青少年の非行・被害防止県民大会 7月末

○愛媛の未来をひらく少年の主張大会 8月5日（土）

※両大会とも愛媛県生涯学習センターにて開催予定

※日程は変更となる場合があります